

## デジタルツールはあくまでツール。事業運営・職員育成のため、職員一人ひとりに合った選択肢を用意する。

経営理念に基づいた職員養成を実施するためにデジタルツールを導入。職員のキャラクターや多様化する価値観に応じた職員養成・人材確保・定着の取り組みとは。

### 【ポイント】

- 経営者として就労者の仕事に対する価値観が昔と大きく変わってきていることを実感。会社設立時、経営理念に「職員の尊重」を掲げ、職員の価値観やキャラクターに応じた職員養成のツールとしてデジタルツールを活用している
- Google社の「Google sites（無料のサイト構築サービス）」を活用し、社内ポータルを作成。オンライン上で職員・利用者の月間スケジュール管理、申し送り事項の共有、利用者ごとのケアマニュアルの共有や研修資料の閲覧などを行えるようにした
- 勤怠管理における人的ミスや事務作業を軽減するため、外部業者の勤怠管理サービスを導入し課題を解決

### 経営理念に基づいた事業運営

Delight 香住山手は障がいのある18～64歳の方を対象としたグループホームで「入居者、その家族、地域社会、職員が互いを尊重し合い、心豊かな生活を営めるよう支援する」ことを経営理念としている。

この理念に準じ、職員同士（雇用者・被雇用者）もお互い尊重し合いながら施設の運営を行っている。

### 仕事に対する価値観の変化

代表と施設長は他法人で介護職の勤務経験があり、介護職員の中にスキルアップやキャリアアップを考える人もいれば、役職を持たず、いち職員のままの働き方を望む人など職員の仕事に対する価値観の多様化を実感。現在の会社を立ち上げる際、職員それぞれの価値観を尊重する会社でありたいと考えた。

### 職員が必要と思った時、必要な情報にアクセスしやすいよう、デジタルツールを活用

スケジュールや入居者ごとの決まり事、職員間の

申し送り事項を確認できるような社内専用ポータルサイトを施設長が中心となって無料で作成。



ポータル作成に利用したのはGoogle社の「Google sites」という無料のサイト構築サービス。WordやExcel、PowerPointなどの基本的な機能が使える人であれば十分活用できるサービスとのこと。ポータルサイト化したことで、業務に関する必要な情報をPCだけでなくタブレットやスマホでも確認できるようになったため、交代勤務で職員が入れ替わっても、情報の共有や確認作業が容易になっている。

また、職員が自己研鑽のために必要と感じた情報へアクセスしやすいよう、ポータル内には各種研修資料を掲載し、活用しやすく配慮している。研修資料

はタブレットではなく、紙面の方が活用しやすいと感じる職員もいるため、その職員用の資料も準備している。社内ポータルは自作のため、内容や機能は職員のニーズや要望に応じてその都度、自由に変更・修正しているのも特徴。

## 勤怠管理もデジタル化

勤怠管理については外部業者のサービスを利用し、事業所のタブレットにある専用アプリで勤怠管理を実施している。出退勤時にタブレットでセルフショット（自分の顔を撮影）することで出退勤記録となる。

タイムカードや職員証（カードタッチで入退出管理）などで勤怠管理を行うことを検討したが、カードや職員証の紛失などもあり得たため、現在の手法を採用した。勤怠管理のデータ入力・転機ミスや事務作業が不要となり、管理側としてかなりの負担軽減となっている。

## サービスの質を担保しつつ、職員が主体的に成長できる職場づくりを意識

採用面接で会社の理念、経営戦略や会社のためではなく自分の人生のために働くという考え方を持つよう伝え、この理念に賛同できる人材を採用している。

Delight 香住山手の職員育成の特徴は、入職後、事業所の仕事が一通りできるようになるまでは先輩職員と一緒に業務に従事し、仕事内容を覚える体制を

整えているが、その一方で職員自らが成長することを促すため、PDCA サイクルによる目標設定や目標を達成する具体的な方法を代表と一緒に考えながら行うこととしている。目標はプライベートなことでも良く、本人が決めたことであれば会社はそれを最大限応援するスタンスで関わり、目標を達成するために必要なことを職員自らが考える・決めるという工程を大事にしている。目標の内容にかかわらず、自ら決めたことを達成するという成功体験を積み重ねることで、自己肯定感や能力向上を図っている。

## 業務を「させられている」のではなく、「自ら仕事をしている」へ

仕事上発生する問題や自身の成長に関することを職員が自分で考え・決定することを促し、会社がこれを最大限サポートすることで、仕事に対する責任感が増し、「させられている感」がなくなると考えている。社内ポータルを作成したのも、職員が自ら解決したいと思った仕事上の課題を解決する一助となるツールとしても活用するため。

職員自身が課題意識を持ち、自ら取り組む姿勢と会社が職員をサポートする体制を整えることで、職場や仕事に対する不満も減ると会社では考えている。その結果、開設当初から職員不足で長く悩まされることはなく、職員の欠員が出たときは現職者の口コミ等で新たな職員の採用にもつながっている

## Message

### 新しいことに取り組む時は、あくまで選択肢の一つと考える

システムや機械の導入自体に固執してしまうと上手くいかなかったときに大変な思いをすることになります。あくまで目的を達成するための手段として考えるとよいと思いますし、導入しようと思っているもの以外の選択肢もあるはずなので、それを準備しておくことで不都合が生じたとしても乗り越えることが容易になると思います。

<問い合わせ先>

株式会社 LIVEWELL Delight 香住山手

美方郡香美町香住区山手 113 番地 TEL:0796-20-2634

